

平成30年度田川市協働事業提案制度 採択事業

事業名	「筑豊・田川デジタルアーカイブ」等を活用した持続可能な学び活動に向けた地域資料の収集整理事業
事業種別	市民提案型
提案団体	田川郷土研究会
市担当課	文化生涯学習課
事業予算総額	511,300円
事業目的	現在、大正・昭和初期の写真や地図、伝聞は、所有者の高齢化や写真店の代替わりなどにより急速に失われつつある。本地域には歴史的価値の高い資料が存在しており、これらを収集しデジタルデータ化することで活用が盛んになり、調査研究や学習活動が進むようになることを目指す。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・収集整理事業(提供資料のデジタル化、カード化、一覧化) 市民などから提供された写真、地図などについて、デジタル化による分類・整理作業を行い、活用環境のための整備を行う。 ・「町の風景復元」学習会による収集活動 大正・昭和初中期の写真や地図、伝聞を収集し、著作権・著作権などの移譲を受け、デジタル化、カード化、一覧化を行い、活用環境整備を行う。
審査結果	採択
審査会講評	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な成果は、行政としても非常に役立つものになると思う。 ・今は限定された人たちの中での情報提供になっているが、それを広く一般に求めたときに資料として採択できないものが出てくることも懸念される。 ・協働事業終了後も継続していく仕組みを考慮しておく必要がある。 ・事業の重要性をどう市民に伝えていくかが課題である。 ・団体だけでこの事業を行うのは無理があるので、市と協力していきながら市のウエイトを少し増やしていくべきだと思う。 ・もう少し規模を大きくしてほしい。関わる人も増えるといい。ニーズが結構あった時のことも考慮しておく必要がある。若手の人材開発も必要である。 ・行政としての継続性も気になる。協働事業で1、2年して、市としてどうしていくのかを考えていかないといけない。 ・メンバーの専門性を活かして事業を企画し、他地域に売りこむこともできるのではないかな。 ・長期的にこの制度を上手く活用できるような仕組み(申請窓口など)を、活動中に作っていただきたい。

平成30年度田川市協働事業提案制度 採択事業

事業名	地域学校協働活動事業(鎮西校区)
事業種別	行政提案型(テーマ:地域・家庭の教育力を高める。)
提案団体	NPO法人K'sグループジャパン
市担当課	学校教育課
事業予算総額	449,100円
事業目的	行政・学校・団体が協働し、問題を抱えた子どもとその家庭を支援することで学校の教育効果を高める。 活動内容を地域や家庭に啓発することで、学校教育への理解を進め、協力体制を構築する。 鎮西校区での事業を基盤に、市全体への拡充を模索する。
事業内容	定期・緊急時に学校を訪問し、問題を抱えた子どものための支援教室を運営し、通常の学校運営が出来るよう支援する。 支援教室を活用し、学校が必要と判断した子どもについて、教育相談を行う。 問題を抱えた子どもと保護者への支援として、教職員が家庭に関わる際のサポートを行う。 教職員・保護者・地域住民向けに講座を実施し、学校への理解と協力体制の構築を図る。
審査結果	採択
審査会講評	<ul style="list-style-type: none"> ・他の校区に拡げていくときに、人材を確保出来るのか。スキルの可視化が必要である。 ・支援教室という別室で子どもを指導する際、本当に教育現場と連携しながら協働していないと、子どもたちが切り捨てられた、見捨てられたという風な捉え方をしてしまう。 ・学校現場での人材不足という量的な問題であれば、行政の責任の基にしていかなければならないので、事業終了後に報告してほしい。 ・課題を持っている子どもの背景には病的なものが含まれていることがある。専門的なスキルを持った人との連携が見えて拡大していくと、いい事業になると思う。 ・誰もがどこかでサポート出来るような、みんなが支えられるような図を作っていけると人材の薄さをカバーできるかもしれない。 ・鎮西校区はネットワークがあるが、それ以外のところで上手く普及出来るのかということが気になった。